



NPO 法人ネットワーク地球村発行

「地球村通信」 2015年3月号より

地球村通信
No.4063 15-38 3/6

今回の人質問題

高木善之

今回の人質問題は、1月20日の動画メッセージ以降、湯川さん殺害、後藤さん殺害、パイロット殺害、リシャウィ処刑、ヨルダン政府の復讐空爆、総理の「憲法改正の方針」など、平和を望む人にとっては「最悪のコース」をたどったが、真逆の思想の人にとっては「ベスト」だったのかもしれない。

私は『地球村通信』1月号で次のように書いた。

「今年は予想外の大きな問題が起こるだろう。

原因は安倍総理の個人的思想。対立は対立を招くだろう」
残念ながら、それが的中した。

総理は、過去の日本の戦争について、近隣国について、防衛について、平和について、かなり危険な思想を持っている。

そのことを以前から危惧していたが、今回とんでもないことになった。
このままでは日本は「テロ対象国」になり、国民は危険にさらされる。

●中東問題には関わってはいけない

中東問題は長い歴史問題であって、日本は関わってはいけない。

★「十字軍の遠征」を含めた宗教戦争

「十字軍の遠征」は数百年にわたり、キリスト教国がイスラム教国を侵略、多くの人命（300万人以上）と財宝を奪い、破壊を続けた。

加害者は忘れたかも知れないが、被害者は絶対に忘れないのだ。

米欧の軍事的侵略は、今もイスラムの人々にとっては「十字軍の侵略」であり、強い怒りを感じるのだ。

そこに日本が関わるのは、とんでもないことなのだ。

★日本は変わった！

イスラムの人々には、「日本は仏教国」「アメリカに攻撃された国」「それでも平和を守る国」、ある意味「自分たちと同じ立場の国」だったから親日だったのだ。

その日本が、安倍総理になって好戦的になり、欧米の仲間入り！

「日本は十字軍の仲間になった！」と反日感情を持つのは、「イスラム国」だけではない。

★オスマン帝国の崩壊と分割支配

オスマン帝国は、現在のヨーロッパ、アフリカ、中東にまたがる巨大帝国だった。600年以上続き、多くの文化、多くの宗教を許容し、それぞれの部族長（カリフ、スルタン）が統治していた。

ある意味、巨大な平和な帝国だったのだ。

第一次世界大戦で戦勝国は、そこの巨大帝国を滅ぼし、勝手に線引きして分け合った。だから、この地域の国境は直線になっている。

戦勝国は、そこを部族長に統治させることで、植民地支配をして石油の利権を独占した。

中東問題は、そうした米英支配からの独立運動、反政府運動なのだ。

「アラブの春」は市民の反政府運動の勝利であり、湾岸戦争、中東戦争は自由と独立運動への米英の反撃なのだ。

中東の人たちもイスラム教の人たちも平和を求めている。

日本が、アメリカを中心とする有志国連合（利益共同体）の仲間として中東戦争に参加するのは最悪なのだ。

●なんとかしたいと思う方へ

事実を伝えるには、講演会がもっとも効果的。

講演会の主催にチャレンジしてみませんか。

事実を知り、根本を知り、何をすればいいかがわかるには、WS（ワークショップ）が最も効果的。

5月の「平和のワークショップ」に参加しませんか。